

科学・技術予算編成プロセス改革「アクション・プラン」(案)に関する意見募集でいただいたご意見への対応について

平成22年7月8日
内閣府政策統括官
(科学技術政策・イノベーション担当)

1. 意見募集期間

平成22年5月21日(金)～5月28日(金)

2. 意見提出数

合計 859件

※1人から複数の意見提出があった場合には、それぞれ別個にカウント。

3. 属性別集計

属性	意見数
研究者	537件
会社員	122件
団体職員	109件
公務員	25件
その他	66件
合計	859件

4. テーマ別集計

テーマ	意見数
1. 基本的考え方関係	196件
2. グリーン・イノベーション関係	530件
3. ライフ・イノベーション関係	287件
4. 競争的資金の使用ルール等の統一化関係	73件
5. 巻末資料関係	2件
6. その他	17件
合計	1,105件

※ 提出意見に複数のテーマが含まれていた場合には、それぞれ別個にカウント。

5. ご意見への対応

ここでは、内容と件数を踏まえて、事務局が重要と考える主なご意見と、その対応をまとめました。これら以外のご意見についても適宜対応しています。

§ 基本的考え方関係

【ご意見】

- 人材育成・基礎研究も重視すべき。また、グリーンとライフ関連以外の科学・技術（第3期基本計画に含まれている分野等）も重要。

2大イノベーションだけ優先的に予算をつけるのであれば、その他の研究の継続性を壊し、成果が得られない。高度成長期ならいざ知らず、国がわざわざ土俵を作らないとイノベーションが起こらないのか。

【対応】

- 平成23年度は新たな取組の初年度であることから、一部の課題について先行的にアクション・プランの対象としており、アクション・プラン対象施策のみに重点化して基礎研究や人材育成、他の分野を軽視するという意図は無い。

このため、アクション・プラン本文中においてもその旨を記載するとともに、今後策定する資源配分方針においても、科学・技術全体に対する総合科学技術会議の姿勢を明確に示していきたい。

また、「1. 2 平成23年度に向けて策定するアクション・プラン」（3ページ）の柱書きとして、以下の枠内のとおり追記する。

- 我が国が目指す将来のあるべき姿・社会を実現するため、成長を支えるプラットフォームとして以下をはじめとする科学・技術全体の底上げが重要
 - ・ 基礎研究や人材育成強化による我が国基礎体力強化
 - ・ 国家を支え新たな強みを生み出す研究開発
 - ・ イノベーション創出に資する研究開発システム改革
- 平成23年度はアクション・プランの初年度であることから、以下に示すように、グリーン及びライフの2大イノベーションの一部及び競争的資金の使用ルール等の統一化についてアクション・プランを策定する。

【ご意見】

- 産業界も含め、基礎科学諸分野の研究者から開発の最前線に携わる研究者まで、様々な関係者などと十分な時間をかけて意見交換することが必要。広範な分野から産学官の関係者の参画を得た検討の場の構築は急務。

【対応】

- 基礎科学から産業界まで、多様な関係者の知見を伺うことは重要と考える。産学官の多様な関係者の参画を得た検討の場の構築については、研究開発システムワーキンググループや基本政策専門調査会においてもその重要性が指摘されているところである。今後その具体的な構築に向けて検討を進めて参りたい。

§ グリーン・イノベーション関係

【ご意見】

- 植物科学を利用した技術の研究も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「再生可能エネルギーへの転換」(10 ページ)の方策「太陽光発電などによる再生可能エネルギーへの転換の促進」を2つに分け、新たに「バイオマスによる再生可能エネルギーへの転換の促進」を設定する。その中で、植物機能の解明、植物の活用技術など植物科学を利用した研究開発を明確に位置づける。また、施策パッケージとして「木質系バイオマス利用技術の研究開発」を作成する。

【ご意見】

- 風力エネルギー、海洋エネルギー、地熱エネルギー等を利用した技術の研究も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「再生可能エネルギーへの転換」(10 ページ)の方策「太陽光発電などによる再生可能エネルギーへの転換の促進」の中に、風力エネルギー、海洋エネルギー、地熱エネルギー等を利用した技術を明確に位置づける。

【ご意見】

- 食料増産技術、農業技術の研究も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「社会インフラのグリーン化」(24 ページ)の方策「環境先進技術による社会インフラのグリーン化への支援」を2つに分け、新たに「豊かな緑環境・自然循環の形成」を設定し、その中で、循環型食料生産の推進を明確に位置付ける。また、循環型食料生産システムを含む施策パッケージとして「地球観測情報を活用した社会インフラのグリーン化」を作成する。

【ご意見】

- 森林・生物多様性の保全、自然共生も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「社会インフラのグリーン化」(24 ページ)の方策「環境先進技術による社会インフラのグリーン化への支援」を2つに分け、新たに「豊かな緑環境・自然循環の形成」を設定し、その中で、気候変動に対応した森林、生物多様性の保全の推進を明確に位置付ける。また、生物多様性保全技術を含む施策パッケージとして「地球観測情報を活用した社会インフラのグリーン化」を作成する。

【ご意見】

- 高効率航空機の研究も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「エネルギー利用の省エネ化」(17 ページ)の方策「次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化」において、高効率輸送機器について高効率船舶に加え、高効率航空機を併記する。

【ご意見】

- 無駄な電力消費を省くことができる情報通信技術を利用したシステムの研究も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「エネルギー利用の省エネ化」(17 ページ)の方策「情報家電・情報通信機器等の省エネ化」を「情報通信技術の活用による低炭素化」と変更し、情報通信技術を利用したシステムによる省エネ化を明確に位置づける。また、施策パッケージとして「情報通信技術の活用による低炭素化」を作成する。

【ご意見】

- 材料技術の研究等も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「エネルギー利用の省エネ化」(17 ページ)の方策「次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化」及び「オフィス・住宅の省エネ化」の中に、材料技術を明確に位置づける。また、革新材料などのブレークスルーのための目的基礎研究を含む施策パッケージとして「蓄電池／燃料電池の飛躍的な性能向上と低コスト化の研究開発」を作成する。

【ご意見】

- 水素製造技術の研究等も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「エネルギー利用の省エネ化」(17 ページ)の方策「次世代自動車の

普及による交通運輸分野の低炭素化」の中に水素供給システム（製造・輸送・貯蔵）を明確に位置づける。また、水素供給システムの性能向上と低コスト化研究を含む施策パッケージとして「蓄電池／燃料電池の飛躍的な性能向上と低コスト化の研究開発」を作成する。

【ご意見】

- ヒートポンプの研究等も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「エネルギー利用の省エネ化」（17 ページ）の方策「オフィス・住宅の省エネ化」の中に、高効率ヒートポンプを明確に位置づける。

【ご意見】

- 超電導技術の研究等も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「エネルギー供給・利用の低炭素化」（16 ページ）の方策「化石資源の効率的使用」の中に、超電導送電技術を明確に位置づける。

【ご意見】

- 地球観測・気候変動予測の研究等も位置づける必要がある。

【対応】

- 課題「社会インフラのグリーン化」（24 ページ）の方策「環境先進技術による社会インフラのグリーン化への支援」を2つに分け、新たに「豊かな緑環境・自然循環の形成」を設定し、その中で、地球観測・気候変動予測・総合解析の高度化を明確に位置付ける。また、施策パッケージとして「地球観測情報を活用した社会インフラのグリーン化」を作成する。

【ご意見】

- 基礎研究を充実させるべき。

【対応】

- 様々な施策パッケージの中に、目的基礎研究を位置づける。

【ご意見】

- 府省連携を積極的に推進すべき。

【対応】

- 方策推進に当たっての具体的な成果目標、その目標に向けた具体的取組（施策）、その取組を担う府省とその連携・分担関係を簡潔にまとめ、重複を排除し、重点化した施策パッケージを作成し、府省連携の進め方を明確にする。

§ ライフ・イノベーション関係

【ご意見】

- ゲノムコホート研究に期待するとともに、実施には疫学・ゲノム研究を熟知した研究者が不可欠であり、10-20年後を見据え、セキュリティを確保して進める必要がある。また、対象疾患にがんを含め、エコチル調査等とも連携すべき。

【対応】

- 当該課題については、ご意見を十分踏まえ、ご指摘事項を含めて推進していく（修文なし）。

【ご意見】

- 革新的診断・治療法の開発による治癒率の向上について、力を入れて取り組むべきであり、特に「がん」は、医工・産官連携し、継続して行う必要がある。

【対応】

- 当該課題については、ご意見を十分踏まえ、ご指摘事項を含めて推進していく（修文なし）。

【ご意見】

- 高齢者・障がい者のための生活支援技術においては、ロボット・テクノロジーやユビキタス・ネットワークの研究開発が重要である。

【対応】

- 当該課題については、ご意見を十分踏まえ、ご指摘事項を含めて推進していく（修文なし）。

§ 競争的資金の使用ルール等の統一化関係

【ご意見】 ○ 競争的資金の使用ルール等の統一化は、費目構成の統一や費目間流用の統一、実績報告書の提出期限の統一など、各研究機関での外部資金の適切な執行に結びつく、良い改革と考えます。

【対応】

- ご意見を十分踏まえ、推進する。

【ご意見】

- 競争的資金の使用ルール等の「統一化」というタイトルになっているが、複雑なルールに統一されても意味はなく、「簡素化」などの言葉と列記してはどうか。

【対応】

- 使用ルール等の統一だけが目的ではないので、ご意見を踏まえ、タイトルなどを「競争的資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化」に修正する。

【ご意見】

- 使用ルールの統一化に加え、競争的資金の公募、申請、実施、評価の一連のプロセスにおける業務フローの簡素化・迅速化についても検討を加えるべきである。交付時期の早期化、単年度会計の見直しなどについて、さらなる改善が必要である。

【対応】

- 公募時期及び交付時期の早期化について、ご意見を踏まえ、今後、各競争的資金制度における実態を把握し、改善について検討することとし、その旨を「4. 2. 7 その他の課題」(51 ページ) に記述する。

- 【ご意見】 競争的
- 競争的資金をできるだけ配分機関に移行し、「最先端研究開発支援プログラム」で実現できた「基金制度」を可能な限り多くの競争的資金に広げていただきたい。
- 制度の数だけルールがあるわけであり、ルールの統一化云々の前に、いの一に制度の大胆な大括り化が必要ではないか。
- 制度を一つにまとめれば無駄がなくなるわけではない。重要なのは、同じテーマに対して複数の多様な組織が競合することである。

【対応】

- パブリックコメントでは、競争的資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化について、実施を期待する意見が多かったことを踏まえて、以下の内容を追加することとする。(「4. 3 ロードマップ」(51 ページ))

- ① 個別の課題ごとに、ロードマップを作成し、アクション・プランに掲載する。
- ② 所管府省等における、使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化に向けての取組みについて、「科学技術関係施策の優先度判定(SABC判定)等」において、各競争的資金にかかる概算要求を判定する際の重要な要素とする。